

第8回伊豆市教育振興審議会会議録

開催日時 平成30年6月5日（火）午後7時15分～午後9時00分
開催場所 伊豆市役所 別館 2F 大会議室
出席委員 菊地篤子会長、勝呂義衛副会長、澤木育子委員、鈴木和仁委員 鈴木浩二委員、
鈴木洋一委員、金子歩美委員、石井美香委員、井澤彩香委員、
原勝也委員、鈴木千秋委員、藤江康彦臨時委員、菊池之利臨時委員【13名】
欠席委員 小笠原茂委員【1名】
事務局 西井教育長、金刺教育部長、菊地統括監、小塚課長、工藤指導主事、
梅原学校教育専門員、鈴木主任

1 開会

ただいまより第8回伊豆市教育振興審議会を開会いたします。

2 会長挨拶

前回から10日あまりの間に会議が続き大変ご苦勞をおかけしているところだが、前回までに皆さんから貴重なご意見をいただいた。本日最終答申を決めることとしたい。最後まで気を引き締めて頑張っていきたいので、ご協力をお願いします。

前回に引き続き今回も「自由に委員の意見を聞く」ということで、非公開で行う。非公開ではあるが、意見は名前を伏せてホームページで公開するので、ご了承ください。（委員了承）

3 報告事項

なし

4 協議

（1）より良い中学校の教育環境づくりの「最終答申」決定に向けての意見交換

会長

前回の5月25日の話し合いを答申案（資料1）としてまとめることができた。そのあと、今日までの間に皆さんからの意見を取り入れて修正に修正を加え、本日の案（資料2）となっている。修正した個所は赤字で示されているが、内容で大きく変わっているものはなく、言い回しや章立て等の構成を変更した。再度皆さんで検討していただきたい。

それでは、読み上げます。（検討用素案を読み上げ）

会長

皆さんから、ご意見を伺いたい。本日は、基本的には最終と考えている。

委員

1頁のスピード感を持ったという部分の1文が長いので「・・・あるべきです」というところで区切った方がわかりやすい。

会長

「・・・施設であるべきです」で区切って、「しかし中伊豆中学校・・・」というふうにつなげていいか。

会長

天城地区というところは、天城湯ヶ島地区に変えなくていいですか。一番上の表題は天城湯ヶ島となっている。

委員

天城地区でいいと思う。湯ヶ島という言葉は入れなくてもいいのでは。

委員

諮問の言葉は天城湯ヶ島となっているので合わせたらどうか。

委員

天城地区でいいと思う。昔から「湯ヶ島」と言うと「狩野」という言葉が出てくる。天城地区のことなので「天城」でよい。

委員

天城湯ヶ島町が一緒になった経過で、両方の名前を主張した結果天城湯ヶ島になったので年配の方々がどう思うか。

委員

町のことならば天城湯ヶ島がよいが、天城中学校のことなので天城でよいのではないか。

委員

天城中学校のことだから、天城地区という言葉でいいと思う。

委員

四角の中の結論のことで意見がある。「意見で一致しました」「意見に達しました」とあるが、「結論に達しました」という言葉にしたい。

会長

前回の話し合いで、結論をこの位置に持ってきたが、もっと強調するためにリード文の前に持ってくるという案はどうか。四角い線で囲んでいるが、アンダーラインや協調文字にするとかどのような方法がよいか。枠で囲んでもよいのか。

事務局

答申様式に特に決まりはない。

会長

白黒で印刷されるので、太字、囲みで強調する。でよいか。

委員

強調の仕方はそれでよい。「最終的に合意しました」という言葉に続くので言い切りの形にした方がよい。「生徒集団が必要である、統合すべきである」という結論に「一致しました」「達しました」と言っている。「一致しました、達しました」という言葉は結論の中身ではないので欄外にだす。この部分が、諮問に対する答えなので常体にしたらどうか。

委員

「必要である」「統合すべきである」という言葉を言い切りにした方がよい。「合意した、一致した、結論に達した」という言い方が一緒にあるとちょっとおかしい。

会長

修善寺・中伊豆・天城地区の中学生にとっての『より良い教育環境』を総合的に判断し、

中規模程度の生徒集団が必要である。そのためには3つの中学校を統合すべきである。というのでどうか。

委員

あるいは「総合的に判断し」という言葉を四角から出してしまっていて「・・・議論を重ね、総合的に判断して、最終的に次のように合意しました」とし、そのあと、「中規模程度の生徒集団が必要である。3つの中学校を統合すべきである」というふうにもっとシンプルに四角の中をしたらどうか。

会長

伊豆市の少子化の現状と将来を見据えた課題を踏まえ、修善寺・中伊豆・天城地区の中学生にとっての「より良い教育環境」について市民や保護者の意見を参考にしながら総合的に判断した結果、最終的に次のように合意しました。

委員

議論を重ね、というのは入った方がよい

会長

「・・・議論を重ね総合的に判断した結果、最終的に次のように合意しました。」なので「中規模程度の生徒集団が必要である。そのためには3つの中学校を統合すべきである」

委員

今聞いていて、中規模程度の前に「中学生にとってのより良い教育環境としては」という言葉があった方がよい。四角の中に何度もくどいような気がするが、ここがすごく大事、このことを議論してきたので、多少重なってもよいと思う。

会長

四角の中の言葉をもう1度話してほしい。

委員

修善寺・中伊豆・天城地区の中学生にとっての『より良い教育環境』としては、中規模程度の生徒集団が必要である。

そのためには3つの中学校を統合すべきである。というようにしたらどうか。

会長

今の言葉で理解できたか。四角の中をより簡潔に、大事なことだけに絞り、そのための理由は上の文章に入れ込むことで、読む人も大事なことが目に入りやすくなる。どうだろうか、ご意見ください。

委員

総合的に判断しというのは、前のところにかかってくるのか。議論したことを総合的に判断したということか。

会長

議論を重ねて総合的に判断したらこうなった、ということである。

委員

その目的は、良い教育環境づくりということ。

会長

今までの内容を事務局に整理してもらい、結論の言葉は保留にして他のところを進める。

委員

「学校見学による」ではなく、「学校見学を通して」の方がよいのではないかと。
「スピード感」を持ったという言葉は、もっと重い言葉にしたい。「早急な計画案づくり」という言葉ですぐにやってほしいという説得力を出したい。

会長

早急な計画案づくりへの取り組みではどうか。スピード感を持つという言葉があいまいなので人それぞれとらえ方が異なってしまふ。もっと明確な言葉で表現したらどうか。

会長

早急な計画案づくりへの取り組みではどうか。・・・(時間がかかりそうなので) 保留にする。あとで話し合うことにする。

委員

「生徒にとって環境改善は急務で対策は待ったなしの状況」というところは、「生徒にとって」ではなく、「生徒の安全のための」としたらどうか。

会長

生徒の安全のためだが、生徒だけじゃない。

委員

教師もいる。

会長

地域の方もいる。避難場所になりえないということ。

委員

「生徒」をとってしまって、「安全な環境改善は急務で・・・」としたらどうか。

会長

安全に向けた環境改善は急務である。利用者全体・・・教員も含めて・・・地域の方々も含めてということで理解したい。

委員

安全に向けた環境改善という言葉は中規模校への教育環境整備につながるか？

会長

校舎の整備は、中規模校にするための教育環境整備ではない。

委員

教育環境整備にはかかるが。(中規模校にする理由にはならない)

会長

中規模校にはかからないけれど、教育全般には関係ある。

委員

速やかにという言葉に関係がある。

会長

中規模校という言葉をとってしまったらどうか。

委員

「中規模校の環境整備に際して、配慮すべき課題」という言葉が表題なので、最後はこのテーマに合致しなければならないのではないかと。

会長

表題に書いてあるので、あえて言わなくてもいいのでは。老朽化のことはここでしか言えない。計画の中に老朽化のことは入れるのだけれど、1番ではないのかもしれない。重要なものは、3)の教育の質向上とか、2)の通学対策とかではないかと。

委員

この1)でいうべきことは、早急な対策が必要だということ。なぜ早急な必要かということ、「少子化」ということと「校舎の老朽化」ということ。大事なことは、そのために急いでやらなければならないということをお伝えしたい。

会長

急ぐ理由として、少子化と老朽化だが、老朽化の方が文書量のボリュームが大きい。

委員

でも環境の現状を伝えることは大事なことです。

委員

スタートの文で少子化のことを訴えているので、ここはこのままでよいのではないかと。

会長

「このことから」ではなく「これらのことから・・・」「以上のことから・・・」という言葉にして段落を変えたらどうか。

委員

(老朽化について文書量のボリュームが大きいというが) 中学の現状について具体的に書いてあるがわかっていることだから、削除したらどうか。

会長・他委員

いや、みんなわかっていない。築46年とか絶対必要である。築年数は、校舎が自分と比べてどのくらい古いか、等わかると思う。

委員

天城・中伊豆・修善寺がただくっただけでは学校は何も変わらない。実際にICTや英語教育と一緒にただけでは新しい学校ができたということにはならない。「新しい学校を作っていく」とは、今までにない学校を作っていくという視点でやってほしい。各地域のことになるべくとらわれないで、新しい学校をスタートさせる。そういう視点を持って考えてほしい。名前を変えるし、そこから歴史が刻まれるので、そのあたりを考慮した学校づくりをしてほしい。

会長

ここには載せられない。3頁目のより良い教育環境には記述できそうだが書き方が難しい。

委員

このことは、とても大事なことで、初代の校長先生がとても苦勞する。各学校、あっちの意見、こっちの意見・・・と各地域の意見を聞きすぎてしまうと大変。できればスクラップ&ビルドの考え方で、新しい学校づくりをした方が、生き生きした学校ができるのでないか。

会長

4月に、今のような意見をどうやって盛り込もうか考えていたが、反映の仕方が難しい。

※ここで事務局より結論の部分で修正されたプリントが配布される。

書き直しのプリントを見てください。すっきりしたと思うがどうだろうか。(委員同意)

会長

2頁目に進む。「安全な通学対策を最優先にする」のではなく、「通学を確保することを最優先に対策をとる」としてほしい。また、「下校時のバス通学生徒の安全対策」とあるが、バス通学者だけではない下校時の生徒全員に対してだと思うがどうか。

委員

「全ての生徒に対して」にしたらどうか。

会長

通学対策のことはよろしいか?では、次へ進む。

「教育の質向上」という言葉は「教育の質の向上」としたらどうか。(委員同意)

次に、文章の語尾が「必要」「希望」「要望」などいろいろだがどうするか。

「必要だ」と言うか「要望する」と言うかで違ってくるのでは。

委員

「お願いします」という書き方でなく「必要です」という書き方でよいのではないか。必要なことを話し合ってきたので、希望があるから載せているのだから語尾にこだわらなくてもよい。「取り組む」だけでもいいのではないか。必要なことを話し合ってきたので、そのことを書けばいいのではないか。

むしろ「駐車場の確保」という表題だけでよいのではないか。(統合かどうかの)方向性がしっかり決まってからこういう具体的なことを考えてくれればよいので、あまり中身について書きすぎなくてもよい。ここに至った経緯を話すところで説明すればいいので、答申書は1枚でもいいと思う。

会長

このくらいは必要だと思う。読んで理解しやすいような内容にしたい。語尾については委員の言うように考えたい。

委員

もっとわかりやすくするのならば、不登校・いじめ等の「等」とは他に何を指すのか。くわしい説明が必要なのではないか。

会長

不適応とか学力不足への対策などが入ると思う。

委員

全てについて説明が必要ならば、あまりたくさん書きすぎない方がよいのではないか。「等」という言葉があると、それは何を意味するのか知りたくなる。

委員

さまざまな教育ニーズを拡大解釈して、特別支援教育の充実等、の「等」の中に不登校・いじめをいれて、③と②を一緒にするというのはどうか。もちろん、原因や要因が違うので、あまり一緒にするのはよくないかもしれないが・・・。

委員

「等」というのは広い意味になってしまう。人によって解釈が違う。

会長

そういうあいまいな書き方も必要。意味を広くして、特別支援「等」やいじめ「等」としてこれだけではない、もっといろいろなことに支援してもらいたいという期待や解釈が含まれている言葉である。

委員

すっきりするためには、③と②をまとめるというのがいいかもしれない・・・。

委員

②と③はまとまらない。特別支援教育はいじめ・不登校とは違う。

委員

「等」という言葉がついていてもかまわない。根本的には語尾の「希望する」「お願いする」というような言葉はいらぬということを書いたかったので・・・。

委員

例えば、不登校、いじめについていうと、社会的に問題になっているということもあるが、3つの中学校を統合した時に、起こり得ることとして反対する人が心配していることだと思ふ。つまりいろんな中学校から集まってきて、学校間でいじめが起こるのではないかと、今までは中学校が近くにあったけれど、遠くなったので不登校の子が、よりいきづらくなってしまふのではないかと心配は出てくる意見だと思ふ。

統合した時に出来る懸念に不登校、いじめもあるかもしれないが、事前に手を打っておくことが大切だと思ふ。そこもわかったうえで、答申しているということを書いてほしい。

会長

頭の中を整理したいが、新たな意見を出し合っているのではなく、今まで審議会で話し合ってきたことをもとに、答申にまとめているということを書き加えてほしい。

委員

特別支援の充実についても保護者の方から要望が出ていたのでこれも当然踏まえていきたい。

会長

そうすると、すべて必要なことだから出しているので語尾は「要望する」ということにな

る。もし箇条書きで書けるのなら、はじめに「以下の通りに要望する」として、箇条書きにする方法はどうか。そうしたらすっきりするのではないか。

委員

今までの流れから考えて、語尾を「要望する」という言葉で統一して書いたらどうか。

会長

「要望します」が繰り返されるとしつこく感じる。2頁に書いてあることは全て要望について書いてある。もっと簡単に言うことはできないか。通学対策をして欲しい。安全対策をしてほしい。・・・示してほしい。というようにもっとシンプルな言葉遣いにするのはどうか。他のところでも、環境づくりの整備に取り組んで欲しい。というような言い方もできる。

委員

答申なので、諮問に答えることが最終目的になる。その場合に配慮すべき課題であるので、「中規模が必要である、統合が必要である」その時に大事なことは何か、「そのための要件を満たすかたちで統合してください」ということを言いたいわけである。そのような意味では実質的には要望であるが、審議会は要望を出す集団か、というよりは様々な資料を精査した結果、客観的にこのようなことが大事であることが明らかになりましたと言いたいので、「必要である」の方が客観的な感じはする。何かの利益代償を得るわけではないので、要望というよりは「・・・に取り組むこと」とか「環境づくりをすること」みたいな書き方でもいいが、更に言うとしたら「必要である」くらいにおさえておいた方がよいと思う。答申をしてから実際にやることになった時に、また様々なところに意見を聞くことになる。その時初めて要望が出てくるので、実質的には要望に近いことを書くにしても言葉の使いかたとしては、「要望する、望む」というよりは、保護者の方の意見、各小学校区での意見を聞く会、各中学校の調査をした結果から、「このようなことが必要であるということが分かりました」とした方が答申としてはいいのではないか。

委員

3)の①、②、③で「必要です」「必要です」「希望します」となっているが、③の不登校、いじめについても必要なことなので、ここだけ「希望します」というのは弱い感じがする。

委員

全部「必要です」とした方がすっきりする。

委員

そうすると読んだ感じがしつこいというのがあるかもしれない。

委員

みんな要望なので、「必要です」の方がいいのではないか。

会長

「必要があります。」「必要です。」のどちらが良いか。「取り組みが必要です」、「中学校につながる対策が必要です」のようにすると、通学対策のところも「保護者に示すことが必要です」、「安全な居場所対策が必要です」とするというような方向に話が進んでいるがどうか。駐車場対策も「確保が必要です」教育の質の中の5項目のところは、今の文をそのまま活かしてで良いか。

委員

①の教育環境づくりの整備という言葉は意味が二重になっているので「教育環境づくり」か「教育環境の整備」のどちらかにしたい。

会長

「特色ある教育環境づくり」のところに括弧書きがあるが、答申に括弧書きがあっても問題はないか。

(特に問題はないことを確認)

また、3頁の中で「はぐくむ」と「育む」のようにひらがなと漢字があるが、統一したい。(漢字にする)

会長

3の5)で、全市的な規模で構成される教育環境というのは、この3地域だけでなくという意味合い。幼、小、中、高校に繋げるということで全市的ということ。

委員

伊豆市としてのグランドデザインをつくるということ。

会長

保育園、こども園から小、中、高校へつなげるという意味で全市的としている。前回まではこの文言は入っていなかった。意見として全体を見据えた言葉にしようということになって入っている。全市的という言葉は使うのか？

委員

これは私の意見だが、こども園から小学校までは地域で学ぶけれども、中学校になったらもっと広い範囲で世の中を捉える視野をもたせなければいけない。中学校では伊豆市全体を見せるような環境である必要があるということを言いたかった。全市的というと土肥はどうなるのかという話になるが、グランドデザインとして市全体の教育環境づくりを土肥は土肥小中一貫校でやっているわけであるし、3校は中学校を1つにしてやるのが伊豆市としての教育のあり方ということになるのではないかと思った。中学校はどこか1つの場所になるが、3校それぞれの地区にも目配りをして教育をしていきますということが伝わらないといけないと思う。全市的という言葉が語感として理解しづらいのであれば、他の言葉でもいい。

会長

幼少期からの構築された地域全体での教育環境ということになるのか。小さいときからちゃんと築き上げてきて、そのうえにある中学校であるということなのか。地域全体ということなのか。オール伊豆ということなのか。こういうところでグランドデザインという言葉を使ってもいいかもしれない。

事務局

委員の話は、土肥を否定することにならない。土肥は小学校段階には土肥を勉強する、中学校段階になったら伊豆市を勉強する、そのことによって土肥がわかるというスタンスで考えている。この言葉からは、故郷を大事にする、その故郷が発達段階に応じて広がっていくという思いが感じられる。

会長

この答申にどこにも伊豆市ということばがない。

委員

でも、伊豆市全体という意味合いですよ。考え方として全市的というのは伊豆市のこと。

事務局

勉強の視野として伊豆市全体を考えている。

会長

そのような意味で全市的という言葉を使うとけっこう網羅できるので、いろいろな意味で捉えるという視野をもった教育環境を求める。

委員

こども園と認定こども園となっているが、正式にはどちらか。

会長

細かいことをいうと保育園というのは俗語であって、保育所が正しい。認定こども園・保育所がより正しい言い方。修善寺保育園は名称であって、施設としては児童福祉施設の中の保育所という施設。そのようなものまで整理して書いたほうがいいのか。こども園を認定こども園というのも実は正式には幼保連携型認定こども園となる。誰もがわかるようなものであるのであれば、こども園・保育園。言い方の問題。

委員

こだわりたい気持ちはわかるが、みんなに通じるということを考えると、こども園・保育園という方が分かりやすい。

委員

3頁1)の2行目で、「・・・重要です。そのような・・・」とあるが、間に、何か言葉が入った方がいいのではないか。

会長

最初は「私たち大人は」という言葉が入っていたが、ここだけ我々感になってしまうので削った。誰が努力をするのか、主語としていい言葉があれば・・・と思っている。大人が、(成人が)教育を受けさせる義務があつて、こどもは受ける権利があるということを伝えたい。

委員

「大人がやるべきこと」というのは全てのことになるので、1つにまとめられないか。「教科教育の本質を保つことが可能となる教育環境を整備する努力が必要です」などというように1つにまとめてしまってはどうか。

会長

ここはメッセージ性がある。努力をしなければいけないのは、市民全体であるということで、教育委員会だけに任せることでなく、みんなが考えなければいけないという意味で「努力」という言葉が入っている。

委員

中学校の教科では、専門性を持った教科の先生が常勤することが必要ということは強調していいことだと思う。小規模化していった時に環境としてはあまりよくないということが1つの問題の根っこにあるとすると、努力という形にしてはどうか。

会長

「教科教育の本質を保つことが重要であり、そのための教育環境を整備する提供する努力が必要です」としたらどうか。

委員

3頁3) 2行めで「対応が可能となります」とあるが、前に小規模校の方がきめ細やかな指導ができるということに対する反論があったが、それがなくなったので何への対応かが宙ぶらりんになってしまっている。「多様な学習形態をとることが可能となります」

3頁7) の2行めで「先生」とあるが、生徒からすれば先生であるが、教員という言葉を使っているのと、先生というと教師以外にも先生と呼ばれる人はいる。

会長

今回は、全部教員という言葉になおしたのではないかと思う。

他にはどうでしょうか。

委員

1頁2の1) の近い将来というのは、これから10年で一気に進むので、近い将来というのではなく、「今後10年間で」などある程度数値を出してもっと具体的にします。

会長

全部が単学級になるのは8年後であるが、既に天城中で単学級が発生している。現在の児童数、未就学児の数からいくと「近い将来」となるが、現在既に単学級が発生しており、平成37年度には修善寺中学校でさえ2クラスになるのである。現在天城中学校では単学級が発生しており、現在の児童数、未就学児の数から近い将来修善寺中学校でさえとつなげていく。

委員

近い将来という言葉は、受け取り方が様々だと思うので、具体的にどのくらいかということとは生徒数の資料を見ればわかるが、見ない人には近い将来といわれてもどのくらいか分からないのではないかと。何年後にはとした方がいいのではないかと。

会長

その何年後がまだまだ先だと思える平成37年度。全部が単学級となるのが9年後の平成39年度。

委員

この文章をみると先に中伊豆中学校、天城中学校が単学級になりと書いてある。

委員

合併特例債を使うことを考えると、実際のところ5年しかない。

会長

「早く」を訴えるにはどうしたらいいだろうか。

委員

「10年以内に中伊豆中学校、天城中学校は」、「数年以内に」、「数年間で」などはどうか。

会長

「近い将来」でなく、「今後数年間で」という文言にすると意味合いは変わらずそのまま。

委員

「近い将来」というのがアバウトなので、少しだけわかりやすい。

会長

「今後数年のうちに」か「今後数年間で」。

委員

強い意味でいうのであれば「今後数年のうちに」

会長

「今後数年のうちに」にします。タイトルの「スピード感を持った計画案づくりへの取り組み」の部分はどうしたらよいか。

委員

とにかく急いでやるということは確か。

委員

新しい中学、中規模中学にすぐになければならないというのは、1つは少子化が進んで各校の運営が成り立たなくなってくる。もう1つは校舎自体が老朽化して、お金がかかる。この2つがあるからこそ、教育委員会としての対策を早急に立てて欲しいということをお願いわけである。上の2つの要因に対しては段落を分けなくてもいいが、最後の要望としてはある程度段落を分けるみたいにして一言でやった方が見やすいと思う。

会長

「早急な計画案づくりへの取り組み」

委員

計画案づくりを求めるのがいいか、環境の改善を求めるのがいいか。手続きとしては計画案だが、計画案を作ってくださいなのか、環境を改善してくださいなのか。そこはどちらの方がいいか。

会長

環境を早くかえてほしいという方が大きい。そうすると早急な教育環境改善。

委員

早急な取り組みというように取り組みの方にかけるか。

会長

教育環境改善の早急な取り組み。何を急ぐかということ。「取り組みを急ぐ」だとワンバウンドおかれる。そうすると早急な教育環境改善で切る。言い切っているがいいか。

委員

それくらい改善してもらいたいというのが最後の希望、まとめである。

会長

強い意味合いになったがいいか。

委員

2頁の3) タイトルとしての「取り組み」は「取組」にした方がいい。

会長

そちらにあわせ「早急な教育環境改善の取組」で。文章の中でも最後のところで整備を改善にかえて、速やかに着手するよう要望しますとつなげたらどうか。

これで、最後になるが、いいか。

委員多数

いいと思う。

会長

これらを含めて修正したものを答申書として、委員と一緒に教育長へ提出したいと思うが、これでよろしいか皆様の総意をいただきたいと考えている。よろしければ挙手をお願いしたい。(全員挙手)

1年近く様々なご意見をいただくことが出来た。ありがとうございました。いろいろな意見がたった3枚に含まれ、ここに凝縮されているというように考えているが、今後進めることがあったら、これを尊重した計画案を教育委員会で作成していただけるようお願いしたいと思うし、皆様もそれぞれの立場から見守っていただきたいと思う。

事務局

次第3(3)を説明。

閉会 午後9時00分